

# 20020917A 拔山平一文書目録

整理番号			表題		作成者	概要	形態(数量)	備考
拔山	I	1	『Einführung in die Theorie der Elektrizität und des Magnetismus』	大正11年	Von Dr.Max Planck	「仙臺市元柳町五〇 拔山平一」と押印がある。	1冊(113枚、メモ・表紙含む)	
拔山	I	2	阿部治雄編『個性調査資料(個性用語彙)』	昭和10年9月	阿部治雄	人物者査資料たる身上調書又は考課表作成に関して、個性調査と事務取扱の方法・参考を提示している。	1冊(106枚)	
拔山	I	3	東北帝國大學庶務課編『創立二十五周年記念 東北帝國大學ノ昔ト今』	昭和11年	東北帝國大學庶務課編、拔山平一	表紙に「P72 通研設立に就て 拔山平一」と書かれている。	1冊(60枚)	
拔山	I	4	拔山平一『電気通信研究所設立と其使命』(複製)	昭和11年7月3日	拔山平一	電気通信研究所の来歴を示し、それまでの支援に対してお礼を述べている。表紙に「昭和11年7月3日 東北帝大工学部職員懇親会にて」とある。	1綴(5枚)	
拔山	I	5	『東北帝國大學理科報告本多博士記念號』	昭和11年10月30日	東北帝國大學、本多光太郎、笹氣印刷所	本多光太郎の論文集。なお、『東北帝国大学理科報告』は1912(明治45年)創刊の研究活動報告書である。	1冊(580枚)	
拔山	I	6	1 北支及蒙疆地方産業地図 附保駆使及蒙疆ニ於ケル主要資源統計表	昭和11年8月10日	合資會社・富山房		1点封筒入	定価80銭
拔山	I	6	2 満洲重要鑛産分布図	昭和14年3月1日	南満洲鐵道株式會社 満洲資源館		1点	
拔山	I	6	3 満洲土壤分布図	昭和14年4月10日	南満洲鐵道株式會社 満洲資源館		1点	
拔山	I	6	4 『『満洲電気協會會報』第11号』	昭和15年1月7日	社團法人・満洲電気協會	電気通信に関する論文・言説、座談会、資料の記事を記載。満州国康德7年。	1冊(95枚)	
拔山	I	7	1 A General Theory of Ultrashort-Wave Circus I.	昭和22年	Sin-itiro TOMONAGA.	論文抜刷。	1冊(10枚)	
拔山	I	7	2 Theory of Split-Anode Magnetron, I, II.	昭和23年	Sin-itiro TOMONAGA.	論文抜刷。	1冊(11枚)	
拔山	I	7	3 On the Oscillation Mechanism of the Magnetron	昭和23年	Masao KOTANI	論文抜刷。表紙に「謹呈 拔山先生 小谷」とある。	1冊(5枚)	
拔山	I	7	4 空洞共振器、導波管及び電磁ラツパ	昭和17年8月	園田忍	論文抜刷。表紙に「拔山先生」とある。	1冊(24枚)	
拔山	I	8	小池勇二郎『電子管電極構造論』	昭和23年	小池勇二郎、株式会社修教社	高周波科学論叢第2輯、電子管。部門主任星合正治。電子管理論 I。	1冊(431枚)	
拔山	I	9	1 [Television・新聞]			封筒表に「[0・2・3]Television 新聞」とあり。	小計9点(26枚)	
拔山	I	9	1-1 [新聞切抜]		松前重義	松前重義(工学博士、元通信院総裁)「テレビと民主主義」の切抜。	1枚	
拔山	I	9	1-2 [新聞切抜]			「テレビの実現急ぐ 賠償とは別問題 官房長官答弁」	1枚	

## 20020917A 抜山平一文書目録

整理番号				表題		作成者	概要	形態(数量)	備考
抜山	I	9	1-3	〔新聞切抜〕	昭和26年11月28日	上村伸一	上村伸一(元電波管理委員)「電波管理委の試金石 テレビ問題 公明な姿に還れ」。同じ物が2枚あるが 片方に日付等が記されている。	2枚	
抜山	I	9	1-4	テレビの公共性		新潟・坂三郎・商人	NHKの放送実施計画発表による聴取料徴収を搾取と して批判。	1枚	
抜山	I	9	1-5	日本放送協会受信料免除基準案に対する書面に よる意見	昭和25年6月13日	委員・抜山平一	「昭和25年6月13日 委員長に提出」とあり。放送協 会はいくまで放送を提供するものであること、した がって余裕が生じるときは受信料の値下げや放送の 改良に向けられるべき事など。	3枚(貼付部分 を含む)	
抜山	I	9	1-6	民間放送(商業放送)の許認可	昭和26年4月19日	(抜山平一)	日本文化放送(民間放送)の許認可について、基本的 には認可すべきとの意志を表明。	鉄釘綴(2枚)、 鉄釘は外し 済。	
抜山	I	9	1-7	民間放送(商業放送)の許認可(下書)	昭和26年4月19日	(抜山平一)	上の下書。	クリップ綴(2 枚)	
抜山	I	9	1-8	標準放送に対する周波数割当などメモ	昭和26年4月	(抜山平一)	「長谷長官の談話をもとにして」とあり。このほかメモ 類。	4枚	
抜山	I	9	1-9	『文研月報』第4号	昭和26年8月25日	日本放送協会・放送 文化研究所		1冊(10枚)	
抜山	I	9	2	〔Television・利害関係者〕			封筒に鉛筆書で「〔0・3・7〕利害関係者」とあり。	小計9点(70枚)	
抜山	I	9	2-1	『日本電気通信工業連合会報』第59号	昭和26年2月5日	日本電気有真工業連 合会	(白黒式テレビ)「標準方式決定理由」など。	1点	
抜山	I	9	2-2	『「NHKのテレビジョン放送実施計画」を駁す』	昭和27年4月	日本テレビ放送網株 式会社創立事務所	テレビ放送の実行について、NHKのあり方を批判し、 民営で行われるべきことを論じる。	1冊(8枚)	
抜山	I	9	2-3	『Nippon TV Network Corporation』	昭和27年2月16日	Matsutaro Shoriki		1冊(14枚)	
抜山	I	9	2-4	『我国テレビジョン事業に対する意見書(第二部 運営に関する参考意見)』	昭和26年10月	無線通信機械工業会 事務局	テレビ放送の構想を前に、製造・工業の面から特許 に関する課題を論じたもの。	1冊(12枚)	
抜山	I	9	2-5	『テレビジョンは民営かNHKか』	昭和26年11月	日本テレビジョン放送 網株式会社創立事務 所	テレビ放送の実行について、NHKを批判、民営の利 点を論じる。特に聴視料の面、ラジオ放送の経緯など を題材としている。	1冊(10枚)	
抜山	I	9	2-6	『NHKのテレビジョン放送実施計画』	昭和26年11月	日本放送協会	NHKがテレビ放送を行う上での利点を、公共性(商業 放送でない)、技術面、世界各国の趨勢などを根拠に 示している。表紙に「抜山委員」とあり。	1冊(15枚)	

# 20020917A 抜山平一文書目録

整理番号			表題		作成者	概要	形態(数量)	備考	
抜山	I	9	2-7	『日本テレビ放送網株式会社とNHKテレビの比較得失に就て』	昭和26年11月	日本テレビジョン放送網株式会社発起人代表・正力松太郎	NHKの放送実施計画への疑問を呈し、広告を収入源とする民間商業放送においても公共性は担保可能としている。	1冊(5枚)	
抜山	I	9	2-8	『日本テレビジョン会社とNHKテレビとの比較得失について』(複製)				1綴(4枚)	
抜山	I	9	2-9	[新聞切抜まとめ]	昭和26年4月		読売新聞の「編集手帖」(昭和26年4月5日)、および時事新報の「閣法案が成立 驚いた内閣側」(昭和26年4月1日)	1枚	
抜山	I	9	3	[電波管理委員資料]				小計6点(41枚)	
抜山	I	9	3-1	TV放送の許可についての意見	昭和27年7月	抜山平一	チャンネル割当計画(東京、京都、大阪、名古屋)、資金調達の方法など NHKへのTV免許授与について、またチャンネル割当について(別紙とあるので上がそれか)	クリップ綴(7枚、うち2枚封筒入)	
抜山	I	9	3-2	自筆資料		(抜山平一)	超短波通信研究特別委員会、警察無線に関するメモ	一括封筒入(9枚、内クリップ綴5枚)	
抜山	I	9	3-3	Televisionの周波数帯幅に6MC或は7MCを採用する事の利害得失		委員・抜山平一		鉄釘綴(4枚)、鉄釘は外し済	
抜山	I	9	3-4	[チャンネル割当に関するメモ]		(抜山平一)	チャンネル割当に関するヨーロッパ各国の対応など	1枚	
抜山	I	9	3-5	TELEVISIONの技術基準設定についての考察要素	昭和27年4月28日	抜山平一	「Television技術基準決定に対する異議申し立て聴聞会にて電波管理委員会委員として発言要旨」とあり。	クリップ綴(19枚)	
抜山	I	9	3-6	[各大学の電子工学科設置状況等調査]	昭和35年3月3日	エレクトロニクス協議会事務局長・渡辺立樹	全国各大学の電子工学科設置希望の有無、電子工学増強の有無、学内事情等実態、についての教育養成委員会における調査取纏め	1枚	※このみ電波管理委員会でない
抜山	I	10		エレクトロニクス協議会 1957-1958	昭和32～33年		エレクトロニクス協議会の概要(名簿等)、研究所設立要求、工業高校での電子工業課程に関するものなど。	小計12点(140枚)	
抜山	I	10	1	電子工業課程第一次試案	昭和33年	社団法人・全国工業高等学校校長協会	工業高校における電子工業課程の教科内容ならびに設備についての調査研究内容。発起人として、社団法人・全国工業高等学校校長協会(都立工芸高校長・酒井永治、都立本所工業高校長・赤池憲、都立小金井工業高校教諭・内山一正、都立蔵前工業高校教諭・牧野秀雄、都立北豊島工業高校教諭・吉田正一郎、都立大学附属工業高校教諭・森崎重夫、都立小石川工業高校教諭・浅倉謙一の7氏が挙がっている	2冊(18枚)	

# 20020917A 抜山平一文書目録

整理番号			表題		作成者	概要	形態(数量)	備考
抜山	I	10 2	産業教育振興法に基づく電子工業課程の施設、設備の基準(案)		県立神奈川工業高等学校(副島一之)	施設・設備にかかる経費を調査し、現有のものとおわせて表に整理している。	1冊(8枚)	
抜山	I	10 3	昭和三十三年度 事業計画案(別案)	昭和33年		エレクトロニクス協議会が積極的に活動すべき事項と事務局組織の強化について。振興製作委員会関係、研究対策委員会関係、国際協力委員会関係、教育養成委員会関係、啓蒙普及委員会関係。	1冊(4枚)	
抜山	I	10 4	昭和三十三年度 事業計画案(別案)抜粋	昭和33年		教育養成委員会関係の部分抜粋。	1点	
抜山	I	10 5	エレクトロニクス協議会 役員及委員名簿	昭和33年3月	エレクトロニクス協議会	役員理事、研究対策委員会委員、教育養成委員会委員長、啓蒙普及委員会委員に抜山平一。学識経験者(東北大学名誉教授、慶應大学客員教授)として	1冊(8枚)	
抜山	I	10 6	エレクトロニクス協議会 会員名簿	昭和33年3月	エレクトロニクス協議会	慶應大学工学部電気科客員教授・抜山平一ほか、電気通信関連の要職にある人々が並ぶ。	1冊(8枚)	
抜山	I	10 7	特許審査に関する要望書	昭和33年8月1日	エレクトロニクス協議会	特許審査ならびに審判の迅速化についての要望。原子力および高分子化学の技術進歩に対する審査遅延を減じて、産業に損失を与えることを防ぐよう要望するもの。「着想届出制」をも検討。	1冊(4枚)。メモ書多数。	鉛筆による書込みが多い。
抜山	I	10 8	日本電子技術研究所(仮称)法案	昭和32年6月23日	エレクトロニクス協議会、研究対策委員会	政府の出資による日本電子技術研究所(仮称)の設置の基準を定めたもの。	1冊(13枚)	
抜山	I	10 9	中央電子技術研究所(仮称)設立要綱案	昭和32年12月	エレクトロニクス協議会	通商産業省工業技術院電気試験所、郵政省電波研究所等の電子技術研究所との関係強化を前提に中央機関として国立の中央電子技術研究所を設立しようとするもの。	1冊(8枚)	
抜山	I	10 10	電子技術研究体制の確立に関する意見	昭和32年10月29日	エレクトロニクス協議会、研究対策委員会	電子技術研究体制の確立に関する意見、日本電子技術研究所(仮称)設立要綱、日本電子技術研究所(仮称)法案を内容とする。	1冊(28枚)	
抜山	I	11	『国防』1月号	昭和33年1月1日	朝雲新聞社	「謹呈 抜山先生」とあり。日本の科学と国防を考える座談会(社会党中央執行委員・工学博士・松前重義が参加)を中心に。	1冊(114P)	
抜山	I	12 1	特許審査の迅速化に関する請願書	昭和33年2月27日	エレクトロニクス協議会・会長・高碓達之助・外24名		1冊(5P)	
抜山	I	12 2	特許審査の迅速化に関する要望書	昭和33年2月27日	エレクトロニクス協議会		1冊(4P)	
抜山	I	12 3	特許審査に関する要望書	昭和33年8月1日	エレクトロニクス協議会		1冊(4P)	

## 20020917A 抜山平一文書目録

整理番号			表題		作成者	概要	形態(数量)	備考
抜山	I	13	東京大学電気工学科同窓会編纂『諸先生之おもかげ(第一集) 東大電気工学科之生い立ち』	昭和34年3月10日	東京大学工学部電気工学科教室内・東京大学電気工学科同窓会	明治・大正期の電気工学科教室及び諸教授の思い出がまとめられている。	1冊(78枚)	
抜山	I	14	わが国における電子技術研究の振興に関する建議について	昭和39年6月15日	電子技術審議会々長・抜山平一	科学技術長官・佐藤栄作宛。電子技術研究振興のための施策及び研究課題に対して、政府の方策実施への建議を行っている。	5冊(6枚×5)	
抜山	I	15	[工学博士の学位認定審査のための論文要旨と抜山教授の評価書]		松前重義、抜山平一	表紙に「12-1-8」とメモあり。松前重義の提出論文「無装荷ケーブルによる長距離通信方式」とそれに対する抜山平一の審査を付したものの。	クリップ綴(8枚)	『エレクトロニクス発展のあゆみ』に詳しい。
抜山	I	16	1 附録(1) 地下工場設計圖				1冊(12枚)	
抜山	I	16	2 附録(2) 地下住宅設計圖				3冊(1冊11枚)	
抜山	I	16	3 附録(3) 地下待避所設計圖				4冊(1冊7枚)	
抜山	I	16	4 地下工場細胞設計圖				1点	
抜山	I	17	1 製塩用電熱槽			平面図、側面断面図、説明書。	2枚	
抜山	I	17	2 地下工場図面			建物図面	2点(同じもの)	
抜山	I	17	3 地下工場細胞設計図			構造図	5点(同じもの)	
抜山	I	18	[「米進駐軍ノ椅子」構造図]			洋椅子の構造図。	1点	
抜山	II	1	1 原子力に関するシンポジウム-大學における原子力の研究をどう扱うか-	昭和30年7月23日	日本学術会議原子力問題委員会	日本学術会議講堂で開催された同名シンポジウム資料。	1冊(30枚、間に挟まれている文書も含む)	表紙に鉛筆書で「0・3・17」とあり。
抜山	II	1	2 エネルギー所要量の推定について		委員・宮原将平	エネルギー所要量の算出のため産業構造からくる社会的消費を併せて考える。	2枚	表紙に鉛筆書で「0・3・17」とあり。
抜山	II	1	3 原子燃料公社法案	昭和31年3月17日	日本学術会議原子力特別委員会	原子力法に基づき設立される原子燃料公社の規定に関して。	1冊(10枚)	表紙に鉛筆書で「0・3・17」とあり。

## 20020917A 抜山平一文書目録

整理番号				表題		作成者	概要	形態(数量)	備考
抜山	II	1	4	社団法人日本原子力産業会議の概要	昭和31年3月	社団法人・日本原子力産業会議	原子力基本法の成立に伴う原子力開発・利用体制の本格化が見込まれる中で関係会社・団体・研究機関等民間諸団体が結集して原子力産業会議を設け、政府への協力と原子力開発・平和利用の効果的促進をはかる、ということを目的とするもの。定款、名簿など。	1冊(24枚)	表紙に鉛筆書で「0・3・17」とあり。
抜山	II	1	5	総理府原子力局 昭和31年度原子力予算総表	昭和31年3月17日	日本学術会議原子力特別委員会	原子力関係をはじめとする施設・研究所の予算額などを表にしたもの。	1点	表紙に鉛筆書で「0・3・17」とあり。
抜山	II	1	6	原子力研究所について	昭和31年1月31日	日本学術会議原子力特別委員会	第三の火たる原子力の利用・開発のための施設である原子力研究所の概要紹介。	1冊(20枚)	表紙に鉛筆書で「0・3・17」とあり。
抜山	II	1	7	総理府原子力局 日本原子力研究所法案	昭和31年3月17日	日本学術会議原子力特別委員会	原子力の開発に際して日本原子力研究所設立のための法案。	1冊(10枚)	表紙に鉛筆書で「0・3・17」とあり。
抜山	II	1	8	第21回総会に対する原子力問題委員会報告(案)	昭和31年		行われる委員会は、原子力問題委員会、幹事会、在京委員会、臨時委員会、臨時幹事会、原子力問題に関する懇談会。	3枚	表紙に鉛筆書で「0・3・17」とあり。
抜山	II	1	9	原子力関係資料目録 速報 第2巻第4号	昭和31年4月	原子力関係資料連絡會編集、原子力平和利用調査会発行		1冊(5枚)	表紙に鉛筆書で「0・3・17」とあり。
抜山	II	1	10	原子力特別委員会常任委員会			委員長・伏見康治、幹事・斉藤信房、幹事・山崎文男	1枚	表紙に鉛筆書で「0・3・17」とあり。
抜山	II	1	11	原子力特別委員会			委員長・伏見康治、幹事・斉藤信房、幹事・山崎文男	4枚	表紙に鉛筆書で「0・3・17」とあり。
抜山	II	1	12	矢野勝正『災害累増と保全対策』		長期研究計画調査委員会防災委員会		1冊(19枚)	表紙に鉛筆書で「0・3・17」とあり。
抜山	II	2		『MEMOIRS OF THE RYOJUN COLLEGE OF ENGINEERING』VOL.IV No.4-B	昭和6年12月28日	旅巡工科大学・編纂	旅順工科大学の研究報告書/正誤表	冊子2冊(1冊32枚)	

## 20020917A 抜山平一文書目録

整理番号			表題		作成者	概要	形態(数量)	備考
抜山	II	3	情報文化局第四課 『各国原子力問題の調査報告』	昭和29年4月	情報文化局第四課	アメリカ、イギリス、フランス(一部)を除く(文献多数による)、各国の原子力問題取扱いについての調査。	1冊(39枚)	表紙に「0・2・17」とあり。
抜山	II	4	国際協力局第一課 『国際連合における原子力平和利用の問題』	昭和29年	国際協力局第一課	外務省国際協力局第一課編・国際連合研究資料第4巻第7号。	1冊(78枚)	
抜山	II	5	原子力問題委員会常任幹事会及び法規小委員会 記事	昭和29年9月2日		原子力の「平和的利用」について。	1綴(6枚)	
抜山	II	6	The Hydrogen Bomb and Survival(Text of a speech delivered in the House of commons on March 1st,1955,Bby the British Prime Minister,the Rt.Hon.Sir Winston Churchill,K.G.,P.C.,O.M.,C.H.)	昭和30年	Issuerd by the Information Office British Embassy,Tokyo		1冊(6枚)	
抜山	II	7	日本学術会議 『アメリカの新原子力法』	昭和30年2月	日本学術会議	アメリカの原子力法(1954)の翻訳。日本学術会議原子力問題委員会の原子力問題検討資料。	1冊(38枚)	
抜山	II	8	原子力平和利用調査会 『新原子力法とアメリカ民間企業-アメリカは原子力平和利用の国際協力において何をしようとしているか-』	昭和30年6月	原子力平和利用調査会	資料第16号(双務協定シリーズ第2号)。アメリカ原子力双務協定担当大使・モアーヘッド=パターソンのニューヨークでの原子力産業利用会議所における講演。日本の原子力開発を進める上で、アメリカの、双務協定に伴う原子力援助の本質を窺う資料とされる。	1冊(18枚)	
抜山	II	9	外務省国際協力局第3課 『米国の原子力平和利用計画のための核分裂物質の配分と各国との協力協定交渉の現状』	昭和30年6月28日	日本学術会議原子力問題委員会	原子力平和利用に関するアメリカと各国との外交動向調査。新聞報道を基礎に作成とのこと。	1冊(14枚)	
抜山	II	10	原子力平和利用調査会『アメリカの新原子力法と双務協定』	昭和30年7月	原子力平和利用調査会	資料第17号(双務協定シリーズ第3号)。ニュークレオニクス誌に連載されたアメリカ下院議員・W=S=コール氏の新原子力法に関する解説。	1冊(35枚)	
抜山	II	11	[1955年7月9日 パートランド=ラッセル他10名の学者の署名をもつて発表された声明原文(Text of the statement issued on 9th July,1955,over the names of B.Russel and other 10 scientists )]	昭和30年	P.W.BRIDGMAN、ALBERT EINSTEIN、MAX BORN、L.INFELD、F.JOLIOT-CURIE、H.J.MULLER、L.PAULING、C.F.POWELL、J.ROTLAT、BERTRAND RUSSEL、HIDEKI	不戦あるいは紛争解決の手段として戦争及び原子力の使用を禁止することを促す声明。ビキニ環礁の核実験や第五福竜丸の被害も受けてのもの。	一括(3枚)	封筒に「0・2・17日本学術会議原子力」とあり。

## 20020917A 抜山平一文書目録

整理番号	表題	作成者	概要	形態(数量)	備考
抜山 II 12	原子力平和利用調査会 『日米原子力協定についての見解』	昭和30年9月1日 原子力平和利用調査会	資料第18号(双務協定シリーズ第4号)。日米原子力協定仮調印(6月22日)の内容検討。外務省発表の訳ではなく独自に検討。	1冊(22枚)	
抜山 II 13	外務省国際協力局第三課 『各国原子力情報』第四号	昭和30年9月9日 外務省国際協力局第三課	各国の原子力情報をまとめた雑誌風の編纂物。「英国のジュネーブ会議呈出論文「原子力の分野における技術要員の技術教育及び訓練」四〇頁 五二頁」と朱書あり。	1冊(56枚)	封筒に「0・2・17日本学術会議原子力」とあり。
抜山 II 14	外務省国際協力局第四課 『各国原子力情報』第6号	昭和30年10月15日 外務省国際協力局第四課	協四資第14号。各国の原子力問題取扱いについての調査。	1冊(37枚)	
抜山 II 15	外務省国際協力局第四課 『各国原子力情報』第九号	昭和30年12月1日 外務省国際協力局第四課	各国の原子力情報をまとめた雑誌風の編纂物。	1冊(95枚)	封筒に「0・2・17日本学術会議原子力」とあり。
抜山 II 16	外務省国際協力局第四課 『各国原子力情報』第8号	昭和30年11月15日 外務省国際協力局第四課	協四資第16号。各国の原子力問題取扱いについての調査。	1冊(38枚)	
抜山 II 17	外務省国際協力局第四課 『各国原子力情報』第10号	昭和31年1月7日 外務省国際協力局第四課	協四資第22号。各国の原子力問題取扱いについての調査。	1冊(32枚)	
抜山 II 18	外務省国際協力局第四課 『各国原子力情報』第一〇号	昭和31年1月7日 外務省国際協力局第四課	各国の原子力情報をまとめた雑誌風の編纂物。	1冊(58枚)	封筒に「0・2・17日本学術会議原子力」とあり。
抜山 II 19	外務省国際協力局第四課 『各国原子力情報』第12号 (原子力平和利用影響研究会(マツキニー・パネル)報告-その結論と勧告)	昭和31年3月1日 外務省国際協力局第四課	協四資第26号。各国の原子力問題取扱いについての調査。	1冊(54枚)	
抜山 II 20	[日本学術会議資料]		原子力問題委員会、長期研究計画調査委員会防災小委員会など、日本学術会議下の各委員会に関する資料。	小計848枚	
抜山 II 20 1	『抑留生活の真相-われわれはいかに非人道的取扱いを受けたか-』(報告第二集)	昭和31年11月1日 在ソ同胞帰還促進会編	中国・ソ連に抑留された元軍人ほか一般民を含む人々の体験談。	1冊(18枚)	
抜山 II 20 2	[声明・勧告等]	昭和24年1月～31年4月 日本学術会議ほか	日本学術会議の声明集。第1回～第21回総会で断続的に出された声明を所収。	1冊(9枚)	
抜山 II 20 3	「基礎科学に関する研究白書」調査依頼通知]	日本学術会議、長期研究計画調査委員会・係・小松展之	別紙1として研究白書作成に関する要望事項、別紙2として研究白書調査要項。	8枚(1枚、5枚1綴、2枚1綴)	

## 20020917A 抜山平一文書目録

整理番号				表題		作成者	概要	形態(数量)	備考
抜山	II	20	4	原子力特別委員会常任委員会(第3回議事録)	昭和31年6月15日		アイソトープ会議開催についてのことなど。	1冊(7枚)	
抜山	II	20	5	ベルギーの原子力問題-外務省発行の各国原子力情報中第15号より抜刷-	昭和31年7月7日	日本学術会議原子力特別委員会	原子力と機密保護について。ベルギー政府の定めた「原子力に関する機密保護法」の概要を紹介。	1冊(3枚)	
抜山	II	20	6	[原子力特別委員会資料]	昭和31年3~6月		米原子力調査団訪日について/原子力発電に関するお願い/長期電力需給想定について/「国立放射線基礎医学研究所」設置について/国産炉についての考え方/原子力研究開発計画/原子力開発利用基本計画策定要綱/原子力関係資料目録/原子力特別委員会幹事会(第1回)理事会/原子力特別委員会(第1回)議事録/原子力特別委員会臨時小委員会(第1回)議事録/原子力特別委員会(第2回)議事録/原子力特別委員会常任委員会(第2回)議事録/コロポランと「アジア原子力センター」について	47枚(1枚+1枚+3枚+6枚ホチキス綴+5枚+2枚+1枚+5枚ホチキス綴+4枚+5枚ホチキス綴+1枚+3枚+8枚ホチキス綴+2枚)	
抜山	II	20	7	災害対策の現状		長期研究計画調査委員会防災委員会	水害の予防から発生後の対応まで、現在とられている対策と問題点を提示。災害復旧事業や補助金交付まで記載がある。	1冊(20枚)	
抜山	II	20	8	経済効果測定について		長期研究計画調査委員会防災委員会	公共事業の経済効果について。表紙にメモあり。	1冊(12枚)	
抜山	II	20	9	日本学術会議 第1回原子力シンポジウム要旨集	昭和32年1月13~15日	社団法人・日本原子力産業会議	第1回原子力シンポジウムの講演(研究発表)の募集に際して集めた400字以内の要旨集。	1冊(34枚)	
抜山	II	20	10	[長期研究計画調査委員会資料]	昭和31年9月22日		とりまとめの方針と問題点/基礎科学小委員会記事Ⅱ/基礎科学小委員会記事(案)/日本学術会議長期研究計画調査委員会資料/研究白書提出一覧/人口問題相談会招待者氏名(案)/『蛋白質食糧の生産加工貯蔵及び利用の問題を総合的に考える機関』の設置を政府に申し入れる件/人口問題の総合的研究機構の強化について/	34枚テープまとめ(4枚+4枚+6枚+6枚+6枚+1枚+1枚+6枚)	
抜山	II	20	11	「工業水準の向上について」(『企業経済』抜刷)	昭和28年	住友電気工業株式会社・専務取締役・工学博士・北側一栄		1冊(6枚)	
抜山	II	20	12	「経験を活かす」ということに就て		北川一栄		2枚	
抜山	II	20	13	物性物理学研究所(仮称)設立趣意書			技術開発の競争力を高め工業力における後進性を脱却する目的。	1冊(9枚)	
抜山	II	20	14	日本学術会議 第1回原子力シンポジウムプログラム	昭和32年	日本学術会議他37研究所学協会共催		1冊(6枚)	
抜山	II	20	15	THE INTERNATIONAL CONFERENCE ON THE PEACEFUL USES OF ATOMIC ENERGY	昭和30年8月8~20日			1綴(41枚)	

## 20020917A 抜山平一文書目録

整理番号				表題		作成者	概要	形態(数量)	備考
抜山	II	20	16	科学技術行政機構問題についての経過			資料として、科学技術庁設置に関する決議(30.6.1衆院商工委員会)及び衆議院有志議員による科学技術庁案/科学技術行政機構に関する第5部案/科学技術行政機構に関する第6部案/(第15回総会)研究体制委員会報告書(報告並びに議案)	1冊(30枚)	
抜山	II	20	17	水害被害額に関する資料(II)	昭和30年5月31日	長期研究計画調査委員会防災小委員会	「64水系水害損失価額表」に関する紹介と内容分析。	1冊(7枚)	
抜山	II	20	18	国家消防本部の火災に関する研究及び資料	昭和30年5月31日	長期研究計画調査委員会防災小委員会	火災に関する予防、被害、調査報告。	1冊(10枚)	
抜山	II	20	19	災害関係行政機関	昭和30年5月31日	長期研究計画調査委員会防災小委員会	それぞれの災害について直接間接に関係ある機関を示し、連絡の必要の有無を色分けしている。	1冊(9枚)	
抜山	II	20	20	水害被害額に関する資料(I)	昭和30年5月31日	長期研究計画調査委員会防災小委員会	「河川流域別反乱面積及び一般被害額」に関する紹介と内容分析。	1冊(6枚)	
抜山	II	20	21	戦後の災害復旧費と復旧制度		長期研究計画調査委員会防災小委員会	災害復旧の程度や制度的な整備についての記述など。	1冊(13枚)	
抜山	II	20	22	原子力問題委員会研究体制小委員会(第2回)議事録	昭和30年5月18日		「原子力中央研究所機構(試案)」が含まれる。	2枚	
抜山	II	20	23	提案			第39委員会の提出。原子力問題に関する国内声明について。	2枚	
抜山	II	20	24	提案			第39委員会の提出。第19回国会における政府の原子力予算計上に対して、日本学術会議への諮問を求める。	1点	
抜山	II	20	25	提案			第39委員会の提出。原子力問題に関する対外声明について。兵器としての原子力の恐ろしさと平和利用を訴える。	2枚	
抜山	II	20	26	日本学術会議第39委員会調査資料	昭和29年4月9日		世界の原子炉及び原子力協力体制についての調査分析。	1冊(16枚)	
抜山	II	20	27	原子力平和利用予算打合せ決定事項	昭和29年9月17日		原子力海外調査員派遣要領/原子力平和的利用研究補助金交付要領/原子力平和的利用研究補助金交付要領/構造関係調査研究報告/原子炉材料の製造研究計画/資源開発調査研究計画	1冊(10枚)	

## 20020917A 抜山平一文書目録

整理番号				表題		作成者	概要	形態(数量)	備考
抜山	II	20	28	わが国の原子核物理学者の意見		原子核特別委員会・委員長・朝永振一郎	日本学術会議第39委員会・委員長・藤岡由夫宛。	2枚	
抜山	II	20	29	原子力委員会記録	昭和30年1月24日		出席者として抜山委員。	1綴(2枚)	
抜山	II	20	30	原子力問題委員会在京委員会記録	昭和30年2月14日			1点	
抜山	II	20	31	国際原子力会議参加準備に関する打合会の審議結果に関する件	昭和30年2月18日	国協一課	国際原子力会議への参加について/など。	1冊(10枚)	
抜山	II	20	32	国際科学者会議資料		世界科学者連盟	原子エネルギーの平和的利用について/資料1「原子力の社会的意義に関する国際科学者会談の提案」/資料2「ふたたび国際科学者について」	5枚	
抜山	II	20	33	原子力問題委員会在京委員会議事録	昭和30年3月5日		原子力海外調査からの帰国報告。	2枚	
抜山	II	20	34	原子力問題委員会記録	昭和30年2月24日		原子力利用に関する国外及び国外の会議などについて審議。	2枚	
抜山	II	20	35	原子力海外調査員派遣懇談会の概要	昭和29年12月23日		海外調査員の出発を前に外務省関係官との懇談会を開催。	8枚	
抜山	II	20	36	米国における外国人科学技術者訓練計画	昭和30年10月10日	情文四、原子力委員会(30.1.24)	アメリカの原子力平和的利用に関する提案に基づいて外国人原子力科学技術者の各種訓練計画として、シカゴアルゴン国立原子力研究所、オークリッジ原子核研究所における訓練計画が立ち上がり、人員を募集している。	2枚	
抜山	II	20	37	原子力問題委員会在京委員会記録	昭和30年1月10日		米国寄贈による原子力関係図書保管方についての審議など。	1点	
抜山	II	20	38	米国における外国人原子力科学技術者訓練計画に関する件	昭和30年1月12日	外務事務次官、原子力委(30.1.24)	アルゴンヌ研究所における訓練に関する費用ほか応募推進について内々の依頼。	1点	
抜山	II	20	39	PEACEFUL USE OF ATOMIC ENERGY	昭和29年11月29日			4枚	
抜山	II	20	40	1955年度 毎日学術奨励金申請課題一覧	昭和30年8月9日	日本学術会議研究費委員会		1冊(22枚)	
抜山	II	20	41	1955年度 偕成学術奨励金申請課題一覧	昭和30年8月9日	日本学術会議研究費委員会		1冊(17枚)	

## 20020917A 抜山平一文書目録

整理番号				表題		作成者	概要	形態(数量)	備考
抜山	II	20	42	[委託研究員に関する要望(複製)など]				4枚	
抜山	II	20	43	長期的観点からみた基礎科学振興上の諸問題について(照会)	昭和30年7月4日	日本学術会議長期研究計画調査委員会基礎科学小委員会主任・北川敏男	第4部会員、第4部関係研究連絡委員会委員長、科学研究連絡委員会委員長、統計学研究連絡委員会委員長、計数装置特別委員会委員長、原子核特別委員会委員長、原子力問題委員会委員長、国公立大学理学部長、長期研究計画調査委員会基礎科学小委員会委員、宛。	3枚	
抜山	II	20	44	長期研究計画調査委員会基礎科学小委員会(第1回)記事	昭和30年6月18日			2枚	
抜山	II	20	45	諸外国における原子力の経済的利用		情報文化局第四課仮訳	表紙に「情四資料」とあり。	1冊(53枚)	
抜山	II	20	46	文部省大学学術局学術情報室編『世界各国における原子力開発の概況』	昭和29年4月12日	日本学術会議原子力問題委員会		5枚	
抜山	II	20	47	『米国 原子力発電の動き』	昭和29年3月	社団法人・電源開発調査会事務局		1冊(46枚)	
抜山	II	20	48	伏見康治『イギリスの原子力工場(2)-その建設と運転の物語-』			抜刷。	1冊(3枚)	
抜山	II	20	49	伏見康治『イギリスの原子力工場(1)-その建設と運転の物語-』			抜刷。	1冊(5枚)	
抜山	II	20	50	『通商産業研究』第2巻第6号	昭和29年6月		原子力問題特集号。	1冊(18枚)	
抜山	II	20	51	伏見康治『イギリスの原子力工場(3)-その建設と運転の物語-』			抜刷。	1冊(7枚)	
抜山	II	20	52	SCHOOL OF NUCLEAR SCIENCE AND ENGINEERING	昭和29年12月15日			1冊(6枚)	
抜山	II	20	53	水素爆弾の効果に関する解説				1冊(11枚)	
抜山	II	20	54	SPECIAL SESSION OF RADIOISOTOPE TECHNIQUE COURSE TO BE OPENED TO FOREIGN SCIENTISTS	昭和29年12月6日			1綴(4枚)	
抜山	II	20	55	原子力に関するシンポジウム-大學における原子力の研究をどう扱うか-	昭和30年7月23日	日本学術会議原子力問題委員会	各国の原子力開発利用の動きを受けて国内体制の整備と研究をどう進めるかについて討議。	1冊(29枚)	
抜山	II	20	56	原子力関係資料目録 速報 第1巻第1号	昭和30年9月	原子力関係資料連絡会編、原子力平和利用調査会		1冊(4枚)	
抜山	II	20	57	原子力に関するシンポジウム資料Ⅲ 伏見康治『原子力中央研究所の構想』	昭和30年7月23日	日本学術会議原子力問題委員会	研究機構の概要について。	1冊(7枚)	

## 20020917A 抜山平一文書目録

整理番号				表題		作成者	概要	形態(数量)	備考
抜山	II	20	58	報告書 I	昭和30年6月	原子力平和利用懇談会	原子力利用の推進を目指す。	2冊、24枚(12枚×2)	
抜山	II	20	59	『各国原子力情報』第2号	昭和30年8月8日	外務省国際協力局第三課	各国の原子力の利用状況、原子力発電計画などについて。	1冊(18枚)	
抜山	II	20	60	『各国原子力情報』第1号	昭和30年7月23日	外務省国際協力局第三課	各国の原子力の利用状況、原子力発電計画などについて。	1冊(11枚)	
抜山	II	20	61	1米原子力委員会のプレスリリース	昭和30年6月18日	日本学術会議原子力問題委員会		1冊(33枚)	
抜山	II	20	62	原子力の平和的利用に関する機構案(複製)	昭和30年6月14日	日本学術会議原子力問題委員会	「1954年7月31日(提出)」「1955年6月14日(複製)」とあり。原子力平和利用委員会、原子力平和利用研究所、等の構成について。	1点	
抜山	II	20	63	原子力の研究開発利用の最高統括機関について 前芝委員案	昭和30年6月24日	日本学術会議原子力問題委員会	原子力の平和的利用と開発競争に関する論述。	1冊(6枚)	
抜山	II	20	64	原子力の非軍事的利用に関する協力のための協定(アメリカ→トルコ)	昭和30年5月26日	日本学術会議原子力問題委員会		1冊(9枚)	
抜山	II	20	65	ソ連学術視察報告	昭和30年8月	日本学術会議訪ソ学術視察団	北欧を経て、モスクワ及びレニングラードを中心とした学術研究施設研修の様子。	1冊(62枚)	
抜山	II	20	66	濃縮ウラン問題の概要	昭和30年5月22日	日本学術会議原子力問題委員会	米側の提起による濃縮ウラン受入れ交渉と国内体制整備について。	1冊(3枚)	
抜山	II	20	67	経済審議庁計画部計画第2課『原子力の研究・開発及び利用の促進に関する機構について』	昭和30年6月4日	日本学術会議原子力問題委員会	恒久的な原子力に関する中央機構の建設について。	1冊(5枚)	
抜山	II	20	68	『日本学術会議官公学術集報総合目録』	昭和30年10月1日	日本学術会議		1冊(24枚)	
抜山	II	21	1	[日本学術会議第20回総会資料綴 1955 10月25～27日]	昭和30年	日本学術会議	3日間にわたって開催された日本学術会議第20回総会の報告資料。膨大で多岐にわたる。並置されていた「官公立研究所と民間研究所の分野確立と機能改善協会について」は日程等に相違があったため枝番として採録した。	1冊(171枚)	
抜山	II	21	2	官公立研究所と民間研究所の分野確立と機能改善強化について	昭和31年9月22日	長期研究計画調査委員会・技術小委員会主任・抜山平一	研究と開発に関する論。知的資産の獲得と技術資本としての提供における研究所の姿勢として、学校附属・官公立・営利会社の3者それぞれの研究所を比較し、それらの役割を提示。	1綴(3枚)	

## 20020917A 抜山平一文書目録

整理番号				表題		作成者	概要	形態(数量)	備考
抜山	II	22	1	[日本学術会議第21回総会資料綴 1956 /04/26 ~28]	昭和31年4月26~28 日	日本学術会議	3日間にわたって開催された日本学術会議第21回総会の報告資料。膨大で多岐にわたる。本編と別に追加された資料(物性物理学研究所(仮称)設立趣意書ほか、1955年度到着国別・研究機関別逐次刊行物リスト、日本学術会議図書館到着外国文献速報)も含まれる。	1冊(335枚(246+15+29+15))	
抜山	II	22	2	[料亭改築案内ほか]		とんぼ	料亭とんぼがホテル兼事務所の近代的7階建ビルディングに改築することについての案内。このほか、同ビルの貸店舗・貸室に関する書類、東京大学工学部電気工学科坂本捷房からの葉書も同封。表紙に「0・3・17」とあり。	一括(6枚)	
抜山	II	23		[日本学術会議第22回総会資料綴 1956 /10/25 ~27]	昭和31年10月25~27 日	日本学術会議	3日間にわたって開催された日本学術会議第22回総会の報告資料。膨大で多岐にわたる。本編と別に追加された資料も含まれる。	1冊(375枚=2綴(360+15))	
抜山	III	1	1	續初等代数学教科書	昭和33年5月23日	藤澤利喜太郎・編纂、 大日本図書株式会社		1冊(173枚)	「二、一、一、 抜山平一」と あり。
抜山	III	1	2	[書簡(下書)]	大正元年8月7日		「新二様」宛。体格検査の不成績等への励まし。	1点	
抜山	III	2		[有機化学教科書(A TEXT-BOOK OF ORGANIC CHEMISTRY)]	明治41年4月23日	堀鉞之丞、岩崎壽次 郎、六盟館	高等学校長会議の決議により作成された教科書。	1冊(169枚)	「二、三、一、 抜山平一」と あり。
抜山	III	3		『櫻岡遺稿』完	大正4年2月14日	中野良一編纂、櫻岡 遺稿編纂所	工学博士・中野初子の遺稿編纂。	和装本1冊(51 枚)	32-020
抜山	III	4		東京天文臺編纂『理科年表』	昭和3年10月31日	東京天文臺・編纂、東 京帝國大學	暦部、天文部(太陽系、恒星)、気象部、物理化学部(単位、物性、熱、音、光、電磁気、元素)、地学部(地理、地質及び鉱物、地磁気及び重力、地震)、附録に分かれる。	1冊(223枚)。 挿入地図含む。	
抜山	III	5		『Welt im bild』	昭和6年10月25日		エジソン特集記事	1点	
抜山	III	6		和算ニ於ケル曲線及ビ曲面ニ就テ	昭和9年4月	林鶴一		1冊(13枚)	ページが分離 していない。
抜山	III	7		『高橋是清閣下講演 特許局の思出(要旨)』	昭和9年9月29日	特許法施行五十年記 念會		1冊(13枚)	
抜山	III	8		森川覺三著『ナチス獨逸の解剖』コロナ社刊	昭和15年9月28日	森川覺三、コロナ社	ナチス下のドイツの驚異的な復興進歩に関する研究とそこから得られた教訓を提示。	1冊(204枚)	

## 20020917A 抜山平一文書目録

整理番号			表題		作成者	概要	形態(数量)	備考
抜山	Ⅲ	9	日本学術振興会約編『日本における科学と技術の再編成—米國学術顧問團報告書—』	昭和23年12月5日	日本学術振興会、教育出版株式会社	日本の新しい学術体制に関する助言として、訪日した学術顧問団から米國科学学士院を経て連合国軍総司令部に提出された報告書。学術顧問団はアダムス、クーリッチ、ソーレンセン、ハウストン、ベネット、ロビンスの各博士。英文部分最後尾に「東北本線汽車中にて 昭和24年3月」とあり。	1冊(85枚)。挿入紙片2点を含む。	
抜山	Ⅲ	10	1 東北帝國大學奨學會會則	昭和7年			10綴(3枚×10)	「奨學會」と書かれた封筒入。
抜山	Ⅲ	10	2 [理事囑託通知書]	昭和8年1月25日	東北帝國大學奨學會長・本多光太郎	抜山平一宛。奨学会会則第5条によって抜山を理事に囑託。	1点	「奨學會」と書かれた封筒入。
抜山	Ⅲ	10	3 [履歷書]	昭和13年6月23日	熊谷清	東北帝国大学電気工学科在学中の熊谷清の履歷書。顔写真付。	2点封筒入	「奨學會」と書かれた封筒入。
抜山	Ⅲ	10	4 [履歷書等]	昭和13年6月20日	川井善喜	東北帝国大学電気工学科在学中の川井善喜の履歷書、顔写真付。	3点封筒入	「奨學會」と書かれた封筒入。
抜山	Ⅲ	10	5 津守奨學金覺書(複製)			奨学金授受者に対して返済や入社等の規則を明記している。	7枚(同じ物)	「奨學會」と書かれた封筒入。